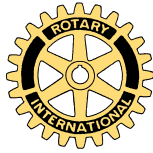


THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2008～2009年度 国際ロータリー 李 東建（リー・ドンカン）会長テーマ

Make Dreams Real 夢をかたちに

創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 塚本幸夫
幹事 廣根実
会報委員長 今村順

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2632回例会プログラム

[当年度=33回目；当月=3週目]

2009年（平成21年）4月20日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘 ……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱
……………それこそロータリー
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 新入会員挨拶 ……関 淳之 会員
9. 幹事報告
10. 出席報告
11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(4/27) ……

卓話 「心のマッサージ」

講師 株式会社ハートフルコミュニケーションズ
内藤 淳子 様（ヒプノセラピー）
（紹介者 南 健 会員）

※第3四半期皆出席表彰（出席委員会）
(5/4) ……休 会（法定休日）

2. クラブフォーラム ……〈雑誌委員会〉

- 13:00 卓話 「紋魂 津軽三味線」
講師 津軽三味線 奏者 神谷 茂良 様
" 馬場 淳史 様
（紹介者 野村 勝実 会員）
14. 謝 辞
15. 点 鐘 ……〈会長〉
16. 閉会宣言

13:30 17. 散 会

ビ ジ タ ー

しのみや かずんど
四宮 和仁 様（知立 RC）

出 席

会員総数 94名 出席免除 22名
出席義務者+免除者の内例会出席者 84名
欠席 11名 出席率 86.90%
前々回（4/6）の出席率 100%

幹 事 報 告

- 1) 3月末をもって明治安田生命の小林雅紀さん、日本生命の小林裕幸さんが共にご転勤で退会されました。一方で本日関興業の関淳之さんが入会されましたので、4月20日現在の会員数は94名でございます。
- 2) 先週の例会で加藤真治社会奉仕委員長よりご案内のありました5月3日の大名行列・山車祭ですが、本日レターケースに再度PRのチラシを入れさせていただきました。あらためて皆様の多数のご参加をよろしくお願いいたします。
- ただし、実際に刈谷RCのハッピーを着て山車を引いていただく方は事前に決めておかないといけませんので、誠に恐縮ですが、今週中に若手の20名程の方々に個別にお願いをさせていただきたいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。

委 員 会 報 告

● ロータリー財団委員会

- 1) 来春4月10日から5月16日までのGSE派遣メンバーを募集します。詳細は募集案内をレターボックスに入れてありますので、よろしくお願ひします。

新入会員の紹介



氏名 関 淳之
生年月日 昭和43年4月25日
推薦者 大音 祖瑛
職業分類 公共土木
事業所名 関興業株式会社
役職名 代表取締役
所属委員会 親睦活動委員会

副会長あいさつ

縁起（えんぎ）について

大音 祖瑛



本日は、塚本会長がご欠席ですので、会長代理を務めさせていただきます。

縁起とは、今日一般的には、良いこと、悪いことの起こるきざし、前兆の意味で用いられ、「縁起が良い」「縁起が悪い」「縁起を担ぐ」などと言う使い方をします。このような意味から、「縁起直し」「縁起物」などという風習や習慣があると思われま

す。二つ目の縁起は、故事来歴の意味に用いられ、神社仏閣などの歴史、沿革、そしてそこに現われる功德や利益などの伝説を示すことがあります。例えば、「信貴山（朝護孫子寺）縁起」などがそれです。信貴山は、信貴山真言宗の本山であります。

三つ目の縁起については、仏教の根幹をなす思想の一つで、世界の一切のものは、直接にも、間接にも、何らかのかたちでそれぞれ関わり合って、消滅したり、変化しているという考え方です。「縁起」という言葉は、「因縁生起」の略で、「因」は原因のことであり、「縁」は条件、環境などであり、「生起」は、果、結果であります。例えば、草花のタネは因であり、日光や水が縁であります。そして、咲いた花が果であります。しかし、日光や水が多すぎても、少なすぎても花は咲かないし、草は育ちません。つまり、縁次第で果は変化するということです。

経典によれば、釈迦は縁起について、「自分の悟った縁起の法は、甚深微妙にして一般の人々の知り難く、悟り難いものである」と言われ、縁起は、この世の自然の法則であり、それを自分（釈迦）は識知しただけであると言われてい

ます。この仏教の基本思想の一つである縁起は、私達が先に存在しているのではなく、無数の因縁があって私達がある。つまり、無数無量の因縁によって、自分が成り立っているという意味であります。

卓 話

「絃魂 津軽三味線」

津軽三味線奏者 神谷 茂良 様
" 馬場 淳史 様



津軽三味線奏者の神谷と申します。津軽三味線は、最近では若者からも「かっこいい」と人気がありますが、もともとは本州の最果て、津軽地方の厳しい風土と歴史の中で生まれました。

それは盲目であるがゆえに、物乞いでしか生きる術を持たなかった、男の門付け（家の前で三味線を弾いて歌って心付けをもらう）芸人「坊様」によって編み出されたもので、名も無き「ほいど芸」と言われていました。生活に不自由ないところで生まれた、他の日本の音楽とは育み方が異なり、吹きさらしの凍え死んでしまうところで生まれた音楽です。

明治維新を迎え、江戸時代の盲人保護政策が解かれて、世間に放り出された盲人たちは、物乞いの生活でしか生きる道はありませんでした。客に喜ばれなければ、その日の糧にもありつけないという絶望的な境遇の中での演奏は、三味線を激しくかき鳴らすものであります。

それは、彼らの胸の奥に秘められた、情念の叫びでありました。悲哀に満ちた音と、目の覚めるようなリズムと旋律は、聴く人たちの魂を揺さぶり、興奮と陶酔の世界に誘うものであったと思います。

私の主宰する「和胤の会」は、愛知・三重・岐阜各所で津軽三味線のお稽古や演奏活動を行っています。2年前からは、全日本津軽三味線競技会名古屋大会を開催しており、私は代表を務めています。

津軽三味線の全国大会は、青森、弘前、金木、東京、大阪、神戸と全国各地で開催され、全国から腕自慢が集まって来ます。そこで競い合う曲が、津軽民謡をベースに演奏者がアレンジした「曲弾き」です。

本日は、2007年の全国大会大阪大会で優勝した、馬場淳史君とともに津軽三味線を演奏させていただきます。どうぞ、津軽三味線の魅力を存分に楽しんでいただきたいと思います。

〈演奏曲〉

1. 津軽三味線合奏曲 「六段」
2. 「津軽あいや節」
3. 「じょんから節 旧節」
4. 二重奏 「田神（たがみ）」



健康診断

